



# 東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎『三人吉三』

Tokyo Metropolitan Theatre Presents Kinoshita-Kabuki "Sanninkichisa"

木ノ下歌舞伎『三人吉三』 監修・補綴 木ノ下裕一 インタビュー

## キノカブの代表作・プレイハウスに見参!

歌舞伎演目の歴史と伝統を踏まえつつ、その魅力を更新し続ける木ノ下歌舞伎。黙阿弥の傑作戯曲を引っ提げ、大舞台に役者の「華」を爛漫と咲かせる!

### 作品を進化&深化させる再演の必然性

— 木ノ下歌舞伎(キノカブ)にとっては三度目の『三人吉三』。今はどんな作業をされているのですか?

木ノ下 私の仕事である監修・補綴は現代演劇のドラマトゥルク的役割。今は再演時の台本にさらなる発見やアイデアを加えています。この作品は三人の吉三郎を巡る物語と、刀剣商・文里と花魁・一重の廓話、二つのパートが交互に語られる構造。場面の順番を組み替えるなど、演出の(杉原)邦生さんの発想を自分なりに先読みしつつ新たな可能性を探っています。

— 一つの作品を回を重ねて上演し、進化させるのはキノカブの真骨頂かと。

木ノ下 上演ごとに作品が変化するのは、刻々と変わる世相に照らすと以前の解釈や演出がはまらなくなるから。たとえば2012年に『義経千本桜』を通し上演し、16年に二段目の「渡海屋・大物浦の場」のみ多田淳之介さん演出で再演しているのですが、初演は東日本大震災の翌年で、「波の下にも都がある」と源平合戦に敗れ、海に飛び込んでいく平家陣営の様子がどう映るかに

神経を使いました。でも再演は戦後70年を超えたことで、天皇にまつわる事柄が前面に出た。この演目は天皇制の話でもありますから。このように、時代の変化に添うよう、作品は常に更新されるべきでしょう。またプレイハウス初進出ではありますが、邦生さんは、緻密なお芝居を構築しつつも、空間をダイナミックに操る手腕が見事な演出家なので、超期待!です。

— 『三人吉三』に関して今回、「時代の要請」による改訂はあるのですか?

木ノ下 本作が初演された安政年間は大震災やコレラの流行で多くの命が失われ、政情も不安定でした。初演・再演以上に私たちが今直面している危機的状況と重なるんです。とはいえ、そこに引きずられ過ぎたくはない。「先行きの見えない日常」が背景にあると意識しつつ、邦生さんの演出家としての5年分の成熟や、私自身が外部で積んだ経験など、今だからできることを最大限活かした上演をめざします。

### 俳優たちの魅力が咲き誇る舞台に

— 出演者のうち10名がキノカブ初体験です。

木ノ下 多彩な俳優陣ですが、創作の手順はい

つも通り。現行の歌舞伎のせりふ回しを完全にコピーした後、改訂した補綴台本をもとに、現代語に変換して発語するなどの個所を加えていく。全員でその過程を共有することで経験の有無に関わらず、最終的には皆さんがキノカブを体現してくださると思います。

— 吉三郎を演じるお三方も、それぞれフレッシュで魅力的です。

木ノ下 和尚吉三役の内田朝陽さんは、声にも振る舞いにも芯のある骨太な方。和尚にぴったりだと思います。大鶴佐助さんは、どんなせりふもねじ伏せて自分のものにしてしまうエネルギーと繊細で詩的な感性が見え隠れするところが、お坊吉三のありように合う方だな、とお嬢吉三役の千葉冴太さんは居住まいが美しく、良い意味で“自分を見せる”ことに長けた方。大鶴さんとのバランスも良いと思います。

河竹黙阿弥は時世を巧みに作品に織り込んだうえ、俳優の魅力を引き出す役も書けるバランス感覚の優れた作者です。初めて『三人吉三』と出会う俳優の方々からも、新たな面を引き出してくれるはず。百花繚乱に俳優が咲き誇る、そんな舞台になればいいですね。

取材・文：尾上そら (ライター)



© 東道子



(上)左より 山田由梨、大鶴佐助、内田朝陽、千葉冴太  
(下)左より 篠山輝信、緒川たまき、村上淳、みのすけ

© 吉次史成

## 『三人吉三』は 作者・黙阿弥の会心作

1816年に江戸の商家に生まれ、幕末から明治にかけて活躍した歌舞伎狂言作者、河竹黙阿弥。約360の作品を生み出し、『三人吉三』『白浪五人男』『魚屋宗五郎』など、今もくり返し上演される名作を多く残した。

その魅力はさまざまだが、とりわけ『三人吉三』の「月も朧に白魚の、篝も霞む春の空……」で始まるお嬢吉三の

独白など、七五調の名せりふは時代を超えて観客を魅了する。

木ノ下さんによれば、『三人吉三』は黙阿弥の会心の作。初演時こそ入りだったものの、自作の中で最も気に入っていた作品として知られている。倒幕前夜、天災や疫病で疲弊した混乱期を駆け抜ける3人の若者たち。その姿に「江戸最後の輝き」が投影されている。



国立国会図書館  
デジタルコレクションより



© 堀川高志



左より 小日向星一、山崎果倫、緑川史絵、森田真和、田中佑弥、高山のえみ、武谷公雄



2020年5月30日(土)～6月1日(日)、  
6月4日(土)～6月7日(日) プレイハウス 詳細はP10,P12へ

作:河竹黙阿弥  
監修・補綴:木ノ下裕一  
演出・美術:杉原邦生[KUNIO]  
出演:内田朝陽 大鶴佐助 千葉冴太  
山田由梨 小日向星一 山崎果倫 緑川史絵  
森田真和 田中佑弥 高山のえみ 武谷公雄  
みのすけ 篠山輝信 緒川たまき 村上淳